

会 議 録

会議の名称	平成25年度第1回(24年度から通算第4回)豊中市図書館協議会図書館評価部会		
開催日時	平成25年(2013年)4月13日(土)10時~12時		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	岡町図書館	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	是山 康代 松田 美和子 青木 朋美 小早川謙一 村上 泰子	
	事務局	足立教育次長 羽間理事 堀野岡町図書館長 北風千里図書館長 大原野畑図書館長 木村庄内図書館長 江口岡町図書館副主幹 松井岡町図書館副主幹 上杉岡町図書館主査 古森庄内図書館主査	
	その他		
議題	1. 図書館活動の評価 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成25年度（2013年度）第1回（通算第4回）図書館協議会図書館評価部会

日時：平成25年（2013年）4月13日（土）10時～12時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 是山 松田 青木 小早川 村上（部会長）

事務局 足立 羽間 堀野 大原 北風 木村 江口 上杉 古森 松井

開会

資料確認

●事務局

4月始めの機構改革により、部制が廃止され、生涯学習推進部長が教育委員会事務局理事に、図書館の所管が教育次長に移ったことをご報告させていただく。

●部会長

図書館評価部会の運営方法について、豊中市では原則的に会議を公開しており、本日も数名の方が傍聴に来ておられる。傍聴は10人の定員としているが、希望者が定員を超えた場合、傍聴していただく方の数については、そのときの状況を見ながら、私のほうで判断させていただくということによろしいか。なお、傍聴の方にはアンケートをお願いしている。協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容のものについては、ご報告させていただく。

また、前回会議録として事前にご送付させていただいたものについては、とくに皆さんの方からご意見はなかった。公開の際にはお手元の記録と同じように概要という形で、発言者については個人名を掲載せず委員とのみ表記させていただく。

それでは、前回の資料に基づいて評価の続きをしていきたい。

本日はまとめと言うことで、事前に報告書案をお手元に配布させていただいている。最後の「おわりに」というところは、今日の結果を受けて完成したい。

今日の内容としては、前回検討をして、まだ十分に意見を集約できていない項目として、7ページの「3 リーディング項目に対する評価」の第1節および第2節のあたり、リーディング項目の妥当性、リーディング項目の目標値の設定が適正かどうか。事前にご意見をいただいている分は反映しているが、それ以外に追加や修正すべきかどうかということ、重点的に見ていきたい。10ページ以降の「4 リーディング項目の達成状況の評価」というあたりは、2回ほどの議論の中で、かなり詰められたと思う。若干追加が必要などところがあるかもしれないが、それについては、残った時間の中で、ご指摘いただく形で進めていきたい。先に今後のスケジュールの確認をさせていただくが、今日が4月13日で、来月の5月13日に図書館協議会が開催され、そこで我々の最終案の提示をする。そのためには協議会の委員に、5月7日くらいまでには確定したものを作成し、それを事務局から送付することを目指したい。今日のご意見を、一週間くらいで私の方で修正案としてまとめさせていただき、一週間くらいの間に見ていただいて、確認をいただく。その結果をうけて、連休前に確定版を作成して、連休後に協議会の委員に送っていただくというスケジュールで進めていきたいが、よろしいか。

次に報告書に沿って見ていく。

7ページの「リーディング項目の妥当性の評価」については、前半部分の「新規指標」「修正指標」を上げている部分は、前回事務局から提案された修正内容を受けたものである。9ページ目は、とくに皆さんから反対や意見はなかったので、「修正提案は妥当なものであると判断した」と記載している。それに加えて、いくつか皆さんからご意見いただいたものを、その下に書かせていただいている。とくに表記の仕方、表現の仕方であいまいな点があり、それをもう少し方向性が明らかになるように修正をすることが望ましい、と例示をいただいたので、それを書いている。後から私のほうで気付いたことだが、中項目Ⅰ-5「その他運営の健全化への対応は図れているか」というところに関して、今日も朝地震があったが、危機管理ということも非常に重要な視点であるご指摘があり、達成度のところに文章としては書いているが、項目の中でもそれは明記すべきだご意見があった。したがってⅠ-5として、表現としては「その他運営の健全化への対応は図れているか」ということになるが、小項目として、危機管理についての適正な対応ということを加えるのはどうか。それから第2節の「リーディング項目の達成目標の妥当性の評価」では、こちらはそれぞれの中項目の中の指標に関して、達成目標の数値というものが入っていた。その数値の中で、実績と合わない個所が何か所あり、これは精査をさせていただき、いくつか上げている。見ていただいて、追加または表現をこうしたほうが良いという意見があれば、教えていただきたい。後の議論で、10ページ以降のリーディング項目の達成状況の評価についても、先に少しコメントを加えさせていただきたいと思うが、おおよそいただいたご意見は、反映させていただいたつもりである。たとえば新たに始めたことをビジュアル化できるように、周知活動をしっかりしていくべきだというようなことや、職員の能力・資質向上については、研修成果がどのような形で身を結んだのかわかる形で、ということを表現した。

貸出冊数とか期間をもう少し、適正な形にしていく努力も必要ではないかという意見も出たが、12ページの「社会ニーズへの対応について」のあたりで、反応を見ながら、新しい取り組みについては軌道修正していくことが必要だとして、含めている。貸出冊数や期間がどのようであれば適正かということについては、自治体によって違いがある。必ずしも長ければ、多ければ良いということでもない。実態を見ながら、しかし今がそうだからこれが当たり前だと考えるのではなくて、常にニーズを測りながら修正していくことが必要だというように書いた。それから評価のまとめにあたる13ページは、まだ文章化していない部分だが、ぜひ盛り込みたいと思っていることとして、図書館はもっと市民の誇りとなるようにしてほしい。そのためには我々も協力を惜しまないと、最後に書き込みたいと考えている。コスト意識を持って取組んでほしいということも、忘れずに書いていきたい。新しい取り組みをどんどん始めてほしい。でも、それが業務の負担増にならないように、賢くやる方法を工夫してほしいということも盛り込みたい。

それでは元に戻って、「リーディング項目に関する評価」のところについて、みなさんからご意見をいただきたい。すでに十分に言い尽くしたということであれば良いが、言い忘れたことなどがあればご指摘をいただきたい。

まず第1節の項目自体の見直しに関しては、事務局から提案があったものと、事前に委員の方からお出しいただいたものと、さきほど加えた危機管理の件、以上でよろしいか。

第2節では、リーディング項目の達成目標の妥当性についての評価である。大項目Ⅱ-1「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか」という中項目で、その中にリクエストサービスの項目があり、設定目標は64万件となっているが、WEBで予約ができるようになり

リクエスト件数が増加し、23年度には767,907件と、かなり目標を上回っている。そういった意味で64万件という目標値は実態と合わなくなっている。それを改定していただきたい。項目Ⅱ-3「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに応えているか」では、「公民館、人権まちづくりセンター・教育センター・地域教育振興課との連携」、「学校・幼稚園・保育所・子育て支援センターとの連携」という項目があり、いずれも事業実施回数では当初設定目標の2倍程度実施している。今回連携先の分け方も見直しされるが、連携協力事業自体を積極的に推進していきましょと、部会の中でも検討してきたことなので、連携が推進されると実施回数も増えていくのが当然の流れであり、目標値の改定をしたほうが良いだろう。Ⅱ-7は、「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」という中項目で、この中には「高齢者への資料提供」や「高齢者・老人保健施設への貸出」という項目が並んでいる。豊中市の人口構成について、65歳以上の高齢者人口が増加傾向にあると示されているので、今後図書館利用者においても、高齢者の増加が予想される。今後3年を見据えるならば、高齢者対象の指標については、目標値を高く設定すべきだ。同じ項目の中の「多言語資料（図書）の収集」については、平成23年度にこのテーマ関連資料を集中的に設置されており、その結果として当初設定目標を大きく上回っている。今回収集した資料は今後も維持していくものなので、現在の目標値は年度ごとの受け入れ冊数200冊が目標のところ、23年度は1200冊であった。これについては、当初の設定目標を上方修正する必要があるのではないか。項目Ⅱ-10「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」の中では、「図書館関係団体・グループへの活動支援」の小項目で、打ち合わせの回数が設定されている。先ほどの「公民館・人権まちづくりセンターとの連携」での指摘と同じ趣旨で、市民との協働の取り組みが推進されているために、打ち合わせの回数は自然と増えてくる。そのため、目標値の上方修正が必要なのではないか。以上の5つの項目を、リーディング項目の達成目標の評価としては、挙げているがいかがだろうか。

事務局に一つ聞きたいのだが、多言語資料については、昨年度の特別な予算で集中的に収集し、今後維持していくとのことだが、毎年度200冊増加という数字がどのくらい妥当なのか確認したい。200以上の数字に修正した方が良いのか、200で維持するのが適正なのか、聞かせていただきたい。

●事務局

ご指摘いただいた多言語資料については、「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、「暮らしの課題解決支援」として、多言語サービスをその一つのテーマとし、この年度には多くの資料をまとめて購入した。豊中市には様々な国籍の在住者が大勢おられることから、今後も取り組みを継続させて頂きたいと考えている。資料の充実については、必要なニーズを把握すること自体も難しい分野で、普通の資料よりも購入も困難だが、数値目標としてはもう少し情報修正できると思う。

●委員

それぞれの項目については、回数をどのへんまで増やすことを目指すか、妥当性を判断する必要がある。と言うのは、まとめにも書いてあるが、コストとの兼ね合いが生じる。レファレンスにしても資料にしても増やせばいいが、全て費用がかかる。会の開催についても人が動き、場所を設定するため、これもコストがかかる。このへんを意識して設定を考える必要がある。なんでも多ければ良いわけでは決してない。そこが課題だ。

●部会長

おっしゃる通り会議などは、限られた回数の中で効率的に会議を運営していくということも必要で、これからの時代、できるだけメールを活用し事前協議をした上で、オフラインの会議を開催するのは、それを確認するものとしてやっていくなど、やり方の工夫が必要である。物理的に連携先が多くなっていけば、それに対しての会議が必要となり、メール会議も会議に含めることもできるので、そのへんのやり方の工夫をぜひ考えていただきたい。

●委員

多言語の資料については、ニーズはどのくらいあるものだろうか。あまりニーズがないのに揃えたということはないか。

●事務局

多言語資料の利用は、図書館に直接来館して利用される以外の形が多い。例えば「世界のこどもの本の部屋」に収集している資料の場合では、学校・保育所・幼稚園などに入学してきたお子さんが、母語を必要とする時に活用されている。日本語を習得できていない人にとっては、自分の居場所や拠り所というか、母語の提供によって非常に救われる側面があるということで、学校を通じて、幼稚園を通じて、ニーズが伝えられる。「今度こういう国の方が来たので、その言語の絵本を貸してください」というようなニーズが寄せられ、応えている。図書館に来館する方だけでなく、そのようなニーズがある。

国際交流センターとの連携事業として、「おやこでにほんご」という外国人親子の居場所づくりの取り組みを、千里、岡町、庄内の3館で実施しているが、そういう場に来られた方について聞きながら、岡町、庄内、千里から資料を取り寄せて提供することもある。今現在のニーズとして、そのような利用が実際ある。

●部会長

今もニーズはあるということだが、昨年度資料を増やした中で、今後その利用がどうなっていくかを見定めた上で、数値目標を上方修正してもいいかと考える。これは蔵書数ではなく、年間ごとの受け入れ冊数の目標値である。200冊くらいずつ今後プラスアルファしていくことを目標にし、様子を見てそれでは追いつかないということが見えてきた段階で、上方修正してもいいかと思う。

また、多言語とひとくりに言うが、様々な種類の言語がある。多言語と聞いてまず思い浮かべるのは英語だが、韓国語、中国語をはじめアジア圏の言語もたくさんある。どの言語にどれくらいウェイトをかけるか、きちんと見極めることが必要であることと、「おやこでにほんご」で母語が必要なお子さんに対しての本は充実していると思うが、仕事の関係で滞在している、大人の外国人の方のニーズも汲み上げていかねばならない。冊数としての数値も大事だが、内容も研修などで吟味して増やしていく、様子を見ていく姿勢が大切だと思う。

●委員

ハーグ条約に参加する・参加しないということが話題になっているように、国際結婚も増えているが、離婚も非常に増えている。親権の問題とか、新しい制度によって様々に社会情勢が変わっている。女性支援の活動もしているが、どうしても国際的な問題が絡むと、なかなか資料がない。指

摘されたように、さまざまな視点で資料を揃えてほしい。

●事務局

現時点では、大人の本の資料収集までは難しい面があり、ニーズがあると豊中市だけでなく他の自治体からの相互貸借など、いろいろな形で提供できるようつないでいる。ここでは多言語資料という指標だが、広い意味で日本語を学ぶための資料、日本語資料として分類される日本語の習得に必要な資料などを含めて、幅広く収集することが必要かと思う。

●委員

すべてのニーズを100パーセント対応することは、予算の縛りもあり厳しいと思うが、内容についてはよく検討する必要があると思う。すべての物事に緊急度と優先順位の検討が必要だ。目的を達成するには、優先順位と効果性をよく吟味する必要がある。公共に対しては色々な希望・要望が寄せられる。すべて叶えられたら良いが、そのような状況にはならない。そこをよく交通整理して欲しい。それは豊中だけでなく、全国の図書館についてもあることだと思うので、上位の組織でその問題をどう対応すべきか、市の図書館だけでなく全国的な中で議論をして、どのような充実の取組みをすればニーズに応えられるか、そんな手法を研究してもいいのではないか。

●部会長

外国語の資料から優先順位の問題にも繋がっていったが、外国語資料の項目では、ニーズに対応して内容についてももしっかり吟味して揃えていくということ。この指標は図書指標だが、それと合わせていろいろな情報という意味で、インターネット上にも多様な情報が発信されており、信頼のおける情報を提供していくことが必要である。市内にも外国人の方を支援する組織はいろいろあると思うが、そういったところとの連携もしながら、お互いに協力をしながら支援していくことが必要だと思う。ひとつの図書館ですべての資料を提供することはできないのは、従来から言われていることだが、図書館間の協力で対応してこれまでも来た。北摂地域、大阪府、全国で、どのように分担や収集の協力ができるのかは、今後の課題だと思う。それらも含め、今回外国語の資料については、年度ごとの受け入れについては200のまま据え置きにするということで、今後も様子を見ながら対応していくということでもよろしいか。3の第1節の「リーディング項目の達成目標の評価」については、このぐらいでよろしいか。

次は4の「リーディング項目の達成状況の評価」になるが、以前からご意見をいただいたところをまとめさせて頂いている。ご指摘、ご意見、追加等があれば、お伺いして最終案に反映させたいと思う。皆さんが考えていただいている間、内容について簡単に見ていきたい。

4の第1節「評価の概要」ということで、リーディング項目の達成状況に関して、自己点検結果報告書、アンケートの調査結果などの文章を参考にしつつ、評価をしてきたということ。運営の在り方自体については、別途館長から図書館協議会自体に諮問されているので、ここでの検討対象とはしないということにした、という評価部会の最初に合意した内容について触れさせて頂いた。第2節の「評価結果」で全体について言われていたことは、「優先順位をしっかりと考えながら進めていくべきだ」、「図書館サービスのPRをもっとやっていく」、「知られていないことは問題だ」ということであった。第Ⅱ項 大項目「経営・運営・管理状況に関する評価」に関しては、職員の能

力・資質向上について非常に大事だということであった。研修の成果が、どんな風にも実際のサービスに繋がったのかがわかるように、職員がお互いにモチベーションが高められる環境づくりをしてほしい。蔵書状況に関しては、外部資金により充実を図れたことは評価できるが、依然として「資料が古い」とか、「旅行のガイドブックが非常に古くて、役に立たない」という話もいただいたが、引き続き新しいものにしていくという改善は求めたい。ただ古い資料自体が悪いのではなく、図書館というのは、古い資料も新しい資料もあるという良いところがあるので、古い資料の魅力を把握して、ちゃんと利用に繋がるような取り組みもしてほしいし、レファレンスサービスの充実でいろいろな資料を利用してもらって、無駄のない利用に繋げていただきたい。

市民の参画については、市民と対等な立場で取り組んできたのは、豊中の誇るべきことだが、討議の中で語られたこととして、図書館からの提案だけでなく、市民からどんどん提案していただいて、その中で一緒に進めていくものがあるだろうということだった。市民からの積極的な参加をもっと促しなさいということだった。

12ページの危機管理については、事故・災害時の対応、保健・衛生問題、犯罪など、危機管理を意識すべきところは増えており、十全な備えを日ごろから心がけていただきたい。そういうところは、自己評価の中でも見えていなかった部分ではないかということだった。第3項は 大項目「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」ということで、いろいろなサービスごと対象者ごとの評価が出ていた。その中で、社会ニーズに対応して効果的なサービスをしてほしいというのが(1)である。コンテンツについても、WEBを通じて提供するものも増え、端末も携帯情報端末に移行している。それらへの対応も、今後システム更新の話も出ているので、大胆に取り組んでほしい。同時に、新しい情報通信技術になじめない人もいるので、そういう方への配慮も一方で忘れてはいけないことということも意見として出ていた。本来の図書館サービスを基本に置きつつ、新しい世の中の流れをいろんなところでキャッチして、ニーズをくみ上げながら、先進的な他の図書館の事例も研究して、とにかくやってみる姿勢が必要だということであった。スピード感を持って動いて、小さく産んで大きく育てるといふか、少し試してみて、反応を見ながら育てていく。ちょっとだめだということになれば、撤退することも含めて、軌道修正しながらやっていくことが必要だというご意見だった。

(2) 他自治体、他館種等との連携・協力については、広域利用の試行も開始され便利になったが、市民にとって利便性の高いアクセスポイントの提供が重要であり、必ずしも新しい建物が建てば良いということではなく、市内での適切な施設配置とあわせ、どのようなあり方が、本当に市民のニーズに合っているか、十分に検討して進めていっていただきたいということである。図書館協議会の中でも、決して今の施設配置が十分ではないということは指摘されているところなので、多くの市民が図書館のサービスに、より便利にアクセスできるような方法を模索していただければと考えている。それをこちらに反映させていただいた。

最後に評価のまとめとしては、全体を通して、スピード感を持って優先順位を明らかにして、常にコスト意識が必要であるところを再掲して、負担増にならないよう賢くやっていこうということを書きたいと思う。この評価の報告書自体は、豊中市立図書館の運営状況に関する報告書なので、本文の方には書きこんでいないが、教育委員会全体の課題として、学校図書館の司書の研修の問題や、親世代の読書の問題など、教育委員会全体として取り組むべきだというような指摘があったので、これに関しては評価のまとめのところで触れたい。図書館がもっと市民の誇りになるような姿を目指していただきたい。それには市民、その他我々も協力を惜しまず、支援をしていきたい

いということに結んでいきたいと思う。

●委員

最初のところで危機管理について付け加えたい。今朝も地震があったが、利用者にとって避難経路の掲示はなかなか目に入ってこない。図書館内には文字が沢山あるので、避難経路などはなかなか目に入らない。誘導のための館内掲示をわかりやすくしたほうがいい。研修やマニュアル整備も必要だが、市民に対してどのように外に出るべきか、非常口はどこかとか、いざ何かが起きた時には非常口に殺到することも考えられるので、シミュレーションをした上で、不安をあおらないような工夫をしつつ、わかりやすい掲示を検討してほしい。

社会ニーズへの対応については、タブレット型端末の普及で読書の仕方も変化してるが、同時に図書館にとって大事なものは、著作権の問題だと思う。ニーズがあるからと言って、何でも応えるわけにはいかないこともあるので、著作権の大切さを市民に発信していくのも図書館にとっては大事な仕事のひとつではないか。社会ニーズに応えながら、その点の発信をしていくことも考えてほしい。

●委員

社会ニーズへの対応について、図書館でも一般の会社でも、運営・マネジメントの視点でものを考える時、競合他社はどこで誰なのか。協力団体はどこで誰なのかと考えていく。市民にとって図書館は大きな社会資源となるが、図書館にとっての社会資源とは何かと、考えているだろうか。発想を変えることで、ほんの少しの発想の転換で大胆なことができるのではないか。お金を使わず、ハード面ではなくソフト面で、パイロット事業を立ち上げて見る。少し小さなことをやって試してみることが必要だ。小さなコミュニケーションビジネスの立ち上げや、地域コミュニティの拠り所となるようなインキュベーションセンターのようなものを立ち上げてみるとか、図書館に何かひとつ新しい機能つけてみることで、図書館のイメージや価値が変わるのではないかと思う。例えばコミュニティ政策室と情報交換してみるなど、図書館にとっての社会資源は何かと考えていくと、もっと新しい発想ができるのではないか。

●委員

危機管理の面で質問をしたい。図書館には防犯カメラはあるのか。連れ去りなどの事件を見聞きすると、子どもが一人でも来るところなので、何かあった時に防犯カメラがあったら安心だし、防犯カメラの張り紙をすると、不審者の抑制に繋がると思う。設置したら監視されているようで嫌だという人もいるが、時代的には防犯のほうが大事だと思うので、防犯カメラは考えてほしい。

また、吹田市との広域利用については、山田図書館が利用できることになると広報誌に載っていたが、いっそ全市にしてくれたほうがわかりやすいと思った。

●委員

ほぼ言いたいことは報告書に入れてもらっているが、12ページの社会ニーズへの対応は、どんな組織でもニーズに対応しないと存在価値がなくなるということは当たり前であり、しっかり運営のベースとして考えていきたい。参考になる例として、図書館としてはエポックメイキングだと思うが、佐賀県の武雄市でカルチャーコンビニエンスクラブと市の図書館をコラボして、新しい図書

館をつくった。年中無休で、今後運営のスタイルそのものを変えて行く必要があるのかもしれない。社会ニーズはそういうことではないか。延長線上ではなく、まったく違う発想が求められてくる。武雄市の例はすごく刺激的で、参考にもなると思うし、将来の一つの在り方を提示しているとも思う。来客数も倍増を想定していて、奥のほうでは、書籍や音楽、映像パッケージのいわゆるレンタルツタヤと共同している。スターバックスのコーヒーも飲めるという。他自治体図書館との連携プラス、異業種との連携も今後さぐっていくことが必要になってくる。できるかどうかは別として、市内のスタバと連携しながら、お店のコーナーを利用して、ミニ図書館を設置する等、いろいろな発想ができるのではないか。研修とか、様々な情報を集めて議論をしていくことが必要ではないか。電子書籍が普及してきて、「自炊」と言って自分でやる人もいる状況だが、図書館も電子書籍をうまく取り込むことを考える必要があるのではないか。それらの動きをうまく利用すること。スマホのアプリで「カーリル」など、自分が読みたい本がどこの図書館へ行けばあるのかわかる。そういう時代なので、この図書館だけでなく、広く世界レベルにアンテナを立てると、ひょっとするとアメリカなど外国の図書館で良いものをやっている情報があるかもしれないので、そういう意識で仕事をしていくことが大事なのではないか。13ページのまとめにある「スピード感」「優先順位を明確に」「コスト意識」は、しっかり外さずに持っていてほしい。

●部会長

危機管理に関しては、マニュアル整備や研修だけでなく、利用者がわかりやすい掲示をしていただきたいということだった。多くの意見が社会ニーズへの対応に集中していたが、一つは、著作権法の問題で、利用者に考えていただくことが必要だということ。マネジメントとしては、コミュニティー政策室とも連携して、新しい発想で新しい企画を立ち上げるべきだということ。相互利用に関しては、今は吹田市とは部分的試行だが、今後検証しながら全市に広げていくことを検討してほしいということ。防犯カメラをつけてほしい、防犯に力を入れてはどうかということに関しては、後で事務局からご意見を伺いたい。社会ニーズへの対応は、ここに書いていることをベースにしながら、他の都市の事例を参考にしながら進めてほしいということだった。武雄市に関しては、個人的には個人情報取扱いなど、いろいろ問題があるように聞いているので、それが直ちに最も適切な解かどうかということに関しては、慎重な検討が必要かと思うが、新しい取り組みが全国で出てきているので、良いことは取り入れるという姿勢は重要だと思う。

事務局から防犯カメラについて、少しご説明をいただきたい。

●事務局

防犯カメラを図書館の入り口、外には設置しているところもあるが、中にはあえて設置していない。防犯カメラも解析が良くなっていて、プライバシーについて、図書館で何の本を見ているのかという情報まで含めて分かってしまうこともあり、中での設置はしていない状況である。ただ廊下や外では実際に設置しているところもある。防犯カメラだけでなく、危機管理という意味では大切な視点ではあると考えている。警備員の巡回も含め、いろいろな形で安全・安心への取り組みをしていきたい。

●部会長

図書館において、読書の秘密を守ることは絶対条件だが、子どもが沢山使うところでは、死角を

無くすような工夫とか、巡回や図書館員の目配りとか、危険なことが起こらないように、十分に気をつけていただきたい。ただそれが直ちに防犯カメラ設置ということになるかどうかは、慎重に行っていただけだと思います。

ここまで、全員からご意見をいただいた。いただいた意見をこちらで反映させながら、最終案をまとめていきたい。以上で長い間検討してきた評価報告書も、ようやく完成の姿が見えてきたと思う。スケジュールに従って、修正案は2週間くらいで完成させていただき、みなさんに見て頂いて、確定版をつくる。それを図書館協議会へ提出したい。図書館協議会で多くの修正がある場合は、みなさんにご確認して、確定版に仕上げていこうと思う。

会議は終了となるが、皆さんにはまだいろいろな連絡伝達でお世話になると思うので、ご了承ください。

その他事務局から報告があればどうぞ。

傍聴席の方からのご感想、ご意見はいかがでしょうか。

それでは以上で豊中市立図書館評議会図書館評価部会を閉会する。

●事務局

4回に渡りご議論いただき、毎年度の自己点検評価の振り返りではなかなか気付かなかったことをご指摘いただき、感謝申し上げます。最終的には公開させていただいて、広く市民の方に図書館の運営の在り方を見ていただく機会にさせていただくと同時に、いただいた意見を図書館の内部の職員で共有して、スピード感を持って、優先順位をつけて、コスト意識を持ってということ肝に銘じながら、少しでも市民サービスを向上できるように努めてまいりたい。今後ともご協力よろしくお願いたします。